

1. 「知識・技能」の評価

(1) 「知識・技能」の評価規準

知識・技能については、「～を調べ、～にまとめ、～を理解してる」などと知識と技能を関連付けて評価規準を作成する。

児童が習得する知識とは、例えば、用語などはもとより資料などで調べてわかる社会的事象の様子についての具体的な知識と、調べてまとめたものを基にして考えてわかる汎用性のある概念的な知識のことである。

また、児童が身に付ける技能とは、具体的には、調査活動や諸資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象を集める技能、集めた情報を「社会的事象の見方・考え方」に沿って読み取る技能、読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能などである。

これらの知識と技能を関連付けて「～を調べ、～にまとめ、～を理解している」などと捉えて評価することが大切である。

そこで、ここでは学習過程に沿って、

- ① 調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象について具体的に理解しているか
  - ② 調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか
- という学習状況を捉えるよう評価規準を設定する。

(2) 評価の視点

- ① 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- ② それらを既習の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

(3) 評価の実際・工夫

- ① ペーパーテストなど、事実的な知識の習得を問う問題場面を設定する。  
ア 知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- ② 実際に知識や技能を活用する場面（ポスターや新聞など）を設定する。  
ア 児童が文章により説明をする場面。  
イ 児童が調査活動・諸調査の活用をする場面。  
ウ 児童がグラフや図等で表現する場面。

2. 「思考・判断・表現」の評価

(1) 「思考・判断・表現」の評価規準

思考・判断・表現については従来通り一体のものとして評価規準を作成する。

見方・考え方を働かせて資質・能力の育成を図る観点から、「～に着目して、問いを見出し、～を考え・表現する」という「追究場面」における評価と、「～比較・関連付け、総合などして、～を考えたり、学習したことを基にして選択・判断したりして表現する」という、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする「解決場面」における評価について評価規準を作成する。

そこで、ここでは学習過程に沿って、

- ① 社会的事象に着目して、問いを見出し、社会的事象の様子について考え、表現しているか
  - ② 比較・関連付け、総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして適切に表現しているか。
- という学習状況を捉えるよう評価規準を設定する。

(2) 評価の視点

- ① 知識及び技能を活用して、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

(3) 評価の実際・工夫

- ① ペーパーテストにおける論述問題やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、討議、作品の制作や表現等の多様な活動場面を設定する。
- ② ポートフォリオを活用する。

### 3. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

#### (1) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

主体的に学習に取り組む態度については、知識及び技能や思考力・判断力・表現力等を身に付けることに向けて粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面について、評価規準を作成する。

そこで、ここでは学習過程に沿って、

- ① 社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究しようとしているか
- ② よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしているか  
という学習状況を捉えるよう評価規準を設定する。

特に②は「社会的な態度」と捉えることができ、社会に見られる課題を把握して社会への関わり方を選択・判断したり、多角的に考えて社会の発展について自分の考えをまとめたりする学習場面で表出されることが多いと考えられるため、思考・判断・表現との関連性も踏まえて規準を設定することが大切である。

#### (2) 評価の視点

- ① 単元の指導事項及び評価「思考・判断・表現」との関連性を踏まえて評価する。よって、例として知識・技能 (C)、思考・判断・表現 (C)、主体的に学習に取り組む態度 (A) の評価にはならない。
- ② 単元のまとめり等で総括して評価をする（見方・考え方の変容を見取る）。
- ③ 発言等の意欲的姿勢のみを捉えて評価することはなじまない。

#### (3) 評価の実際・工夫

- ① ノートやレポート等における記述内容
- ② 振り返りの記述内容
- ③ 教師による行動観察（自らの考えを記述する場面、話し合ったりする場面）
- ④ 自己評価や相互評価等の内容

### 4. 単元の評価規準作成（例示）

- (1) Aについて、学習問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識や技能を身に付けること

- (ア) Bを理解すること
- (イ) Cなどで調べて、Dなどにまとめること

イ 次のような思考力・判断力・表現力を身に付けること

- (ア) Eなどに着目して、Fを捉え、Gを考え、表現すること

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
① Eなどについて Cなどで調べて、必要な情報を集め、読み取り、Fを理解している。	① Eなどに着目して、問いを見出し、Fについて考え表現している。	① A（に関する事項）について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを Dや文などにまとめ、Bを理解している。	② ○と○を（比較、関連付け、総合など）して Gを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	② よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ※ 発展を多角的に考えようとする ※ 選択・判断しようとする